

令和6年度学校評価（自己評価・学校関係者評価）

≪ 自己評価の基準〔※教員の自己評価〕 ≫

4：十分に達成している（適切である） 3：概ね達成している（概ね適切である）

2：不十分である（やや適切ではない） 1：改善を要する（適切ではない）

※下枠内の項目「平均」の数値 ⇒ 自己評価の平均値

≪ 学校関係者評価 ≫

令和7年2月21日（金）13時30分 実施

学校評議員5名 葛西 宣彰 氏（有限会社ウィズ代表取締役）

信夫恵美子 氏（函館大妻高等学校教育支援カウンセラー）

高村 智 氏（函館大妻高等学校 PTA 会長）

佐々木 香 氏（函館市女性会議会長）

山田 伸二 氏（元函館地区市立高等学校長会会長）

【学校運営】

	平均	自己評価の結果（達成状況・結果の分析）	改善方策（自己評価を踏まえた課題、改善の方向）
教育目標や重点目標が、生徒の実態や保護者・地域社会の願いを踏まえた内容になっていると思いますか。	3.2	建学の精神や学校経営方針、目標を念頭に置き、日々の教育活動を行っている実感が持ちにくくなっている。 特に福祉の魅力発信を継続的に行わなくてはならない。	建学の精神や学校経営方針、目標は年度初めの他、学期の始・終業など節目を活用し周知を図る。また、個人への積極的な声掛けにより、先の励行・達成のための振返りの確度を高めることが課題。また、小中学生に、魅力溢れる学校生活を発信するため、生徒募集委員会を中心として企画立案実行を継続していく。
建学の精神や学校経営方針が、教職員に理解されていると思いますか。	3.0		
中学校訪問を実施するなど定員を確保し、安定した教育環境づくりを心掛けていると思いますか。	3.3		
特色ある教育活動、学校づくりを進めていると思いますか。	3.3		
評価（自己評価・改善方策の適切さを、それぞれA・B・Cで評価してください）		評価欄 A-3人 B-2人	評価欄 A-3人 B-2人
学校関係者からの意見	・仕事の偏りの緩和と分掌の固定化の回避を考えたい。組織の活性化のため、また、教師としての成長のため、任せるところは任せる、そして、いろいろな分掌を経験することも必要である。 ・他女子校との違いを明確にしたい。		

【教育課程・学習指導】

	平均	自己評価の結果（達成状況・結果の分析）	改善方策（自己評価を踏まえた課題、改善の方向）
学科・コースの特性を生かした教育課程を編成していると思いますか。	3.4	生徒の価値観や社会の変化のスピードが加速しているが、本校の特色である、手に職をつける専門教育、将来に繋がる資格取得を丁寧に継続している。	ICT 活用の実践が行えるよう、さらに環境を整備する。また、新たな取組みに関しては、各研修報告や学科からの意見を通じ、必要に応じて運営委員会の議題として、生徒や社会から求められる教育実践に結びつけていく。
生徒に寄り添い、生徒の実態に即した分かりやすい授業を実践していると思いますか。	3.3		
生徒による授業評価を参考に、授業力向上に向けて工夫を加えていると思いますか。	3.3		
生徒の資格取得や技術の習得に向けて努めていると思いますか。	3.5		
評価（自己評価・改善方策の適切さを、それぞれ A・B・C で評価してください）		評価欄 A-3人 B-2人	評価欄 A-3人 B-2人
学校関係者からの意見	・教員以外の方から、社会人の大変さと心の持ちようの講義があってもよい。 ・一人一台端末の導入もやっていく段階で、都度対応していく方がよい。		

【生徒指導】

	平均	自己評価の結果（達成状況・結果の分析）	改善方策（自己評価を踏まえた課題、改善の方向）
服装・頭髪・身だしなみ、遅刻・欠席、挨拶などの基本的生活習慣の育成を図っていると思いますか。	3.2	生徒にどういう人になってもらいたいかを意識すること、また、指導には共通行動であたることが時折不十分であった。 休み時間の教室確認や授業中を含めた校内巡視、移動時の整理整頓など含め、あらゆる機会を生徒理解や即時対応のために使う継続性が求められる。	生徒理解に努め、指導技術を高めるため一層の研修の機会を設けたい。「アンガーマネジメント」「協同」を意識した活動を増やす。 そのためにも、指導する人・しない人とならないよう先生方の連携を密にし、感謝や依頼等直接言葉にすること、また、自身の早目の行動により、他の先生の業務に配慮していくことが課題である。
報告・連絡・相談など教職員間で連携を取り、協同の下、問題行動への適切な対応ができていると思いますか。	2.9		
安心・安全・居場所のある学校環境づくりを目指し、いじめや非行防止に努めていると思いますか。	3.3		
講習会等も活用し、SNS の適切な使用についての指導を継続していると思いますか。	3.0		
評価（自己評価・改善方策の適切さを、それぞれ A・B・C で評価してください）		評価欄 A-2人 B-3人	評価欄 A-3人 B-2人
学校関係者からの意見	・人生の先輩として、生徒との距離が詰められるような接し方を工夫したい。 ・遅刻指導、朝巡視、昼巡視などは当番を決めて実施し、放課後などもローテーションで行うのもよい。 ・指導すべき場面で指導がなされているか、生徒指導の在り方で悩んでいる先生はいないか。また、生徒指導とは何だろうかという根っこの部分の研修もよいのではないか。		

【進路指導】

	平均	自己評価の結果（達成状況・結果の分析）	改善方策（自己評価を踏まえた課題、改善の方向）
外部講師による進路選択のためのガイダンスなどが、効果的に機能していると思いますか。	3.5	全学年を通じて進路意識を高めていくための企画を実現している。1年次から段階を追って進路意識を高めている進路決定 100%に結びつけている。	担任を含め教員は、進学先や就職先の現況について、機会を見つけては情報を増やしていかなければならない。また、若い担任が増えているので、進路指導部のリーダーシップのもと生徒・保護者・担任が納得のいく取組みとなるよう、協同のもとに進めていくことが一層求められる。
進路に関する情報を適切に提供し、決定は保護者と連携して適切に指導していると思いますか。	3.3		
講習や模擬試験、面接練習など、進路実現に向けた指導・支援が積極的に行っていると思いますか。	3.4		
本校の進路指導は、満足できる成果が上がっていると思いますか。	3.3		
評価（自己評価・改善方策の適切さを、それぞれA・B・Cで評価してください）		評価欄 A-5人	評価欄 A-5人
学校関係者からの意見	・新たな時代を生き抜けるような人に育ててほしい。 ・学校方針としてどこに重点を置くのか、生徒のニーズに合わせて指導・援助していかなければならない。 ・福祉科卒業後もホテルスタッフ、銀行員、看護師など色々な選択肢があるということをもさらにPRしたい。		

【健康・安全指導】

	平均	自己評価の結果（達成状況・結果の分析）	改善方策（自己評価を踏まえた課題、改善の方向）
感染症対策として体調不良者への迅速な対応や手洗いの励行、学校環境衛生の維持など、指導・点検を行っていると思いますか。	3.5	生徒からの話を十分に聞く環境を整えるために、忙しいような雰囲気を出し過ぎず、ある程度の納得感を与えられるような導きが必要である。また、非常時の際は先生方が率先して動くので、今以上に指示側の判断に的確なものが求められる。	働き方改革は進めるが、一部の先生に仕事が偏ることがないよう、部長・主任の先生には業務が平均化されるよう努めてもらう。 教員同士、またカウンセラーや養護教諭との連絡を密にし、必要に応じて教育支援委員会を活用していく。
性教育や薬物乱用防止教室等を通して、生徒の健康面に配慮した適切な指導が行われていると思いますか。	3.5		
抱える悩みや困りごとに、教員やカウンセラーが相談に応じる体制を整えていると思いますか。	3.2		
災害時・非常時の避難方法や心構え、連絡方法を周知していると思いますか。	3.1		
評価（自己評価・改善方策の適切さを、それぞれA・B・Cで評価してください）		評価欄 A-4人 B-1人	評価欄 A-4人 B-1人
学校関係者からの意見	・最近の生徒の最大の弱点は人間関係作りと感じているので、例えば総合的な探究の時間などに、その内容を組み込めないものか。 ・子どもの状況が変わってきている。子どもたちの中で何が起きているのか分からない部分があり、親が子どもと向き合えるよう学校でも発信してほしい。		

【特別活動】

	平均	自己評価の結果（達成状況・結果の分析）	改善方策（自己評価を踏まえた課題、改善の方向）
学校行事の内容・実施回数及び事前指導・事後の評価等が適切になされていると思いますか。	3.4	部活動に関しては、以前より選手が集まりにくい状況にあり、結果も思うように出し切れていない部活動もある。	特待生含め部員に対しては、教育活動の一環として人間教育を徹底していかなければいけない。その上で学校として環境整備のために協力できることを進めていきたい。
学校行事は生徒にとって有意義なものになっていると思いますか。	3.4		
生徒会行事、部活動等が活性化されていると思いますか。	3.1		
評価（自己評価・改善方策の適切さを、それぞれ A・B・C で評価してください）		評価欄 A-2人 B-3人	評価欄 A-2人 B-3人
学校関係者からの意見	・部活動で、外部コーチの存在も私立校の強みである。		

【地域連携】

	平均	自己評価の結果（達成状況・結果の分析）	改善方策（自己評価を踏まえた課題、改善の方向）
地域を担う人材の育成を積極的に行っていると思いますか。	3.1	進学が多く、函館から離れる割合も増え、卒業後すぐに地域に貢献していると実感できる件数が少なくなっている。地域とつながる行事が少なくなった。	卒業生のその後についても定期的に把握する必要がある。地域と共にある学校であるために、行事の精査を行い地域と各施設との良好な関係性を再構築する。
清掃活動や福祉施設等へのボランティア情報を提供して、地域活動への参加を促していると思いますか。	3.1		
評価（自己評価・改善方策の適切さを、それぞれ A・B・C で評価してください）		評価欄 A-2人 B-3人	評価欄 A-2人 B-3人
学校関係者からの意見	・地域との連携で、ボランティア活動は良い手段である。 ・地域の様々な人とふれあう中で、自分の良さや他人の思い気づき多くの学びを得ることができる。		

【その他】

	平均	自己評価の結果（達成状況・結果の分析）	改善方策（自己評価を踏まえた課題、改善の方向）
就学支援金のしくみや奨学金、授業料軽減制度の案内は、きちんと周知されていると思いますか。	3.3	SNS の活用促進のため、Instagram や TikTok を積極的に利用した。	新しい形での情報発信を探り、実践するため生徒募集委員会を中心に衆知を集め、進めたい。また HP 等既存のデータの更新を積極的に進める。
オープンスクール・体験入学の実施やホームページの活用は、外部への効果的な情報発信になっていると思いますか。	3.3		
評価（自己評価・改善方策の適切さを、それぞれ A・B・C で評価してください）		評価欄 A-4人 B-1人	評価欄 A-4人 B-1人
学校関係者からの意見	・インスタライブなど、中学生が活用しているアイテムを利用するのもよい。 ・さらなる情報発信が必要である。		